



『まえだとし女 全句』



まえだとし女

冬木の芽門の外より一茶句碑
見覚えのある数学者落葉踏む
木の实雨寅さんを観てきしと聞く

学内で寅さん映画秋開ける
照紅葉主婦のカレーが売れてをり
チョコケーキの作り手に遭ふ寒卵
子のけがは治り視線に破魔矢かな
隼の円らな眼に出あひけり
浅漬を盛る唯一のとべ焼に
「鉄板と魚貝料理」の字実南天
鋤焼の水分多く婆二人
モノトーンの纏の街灯雪を待つ
歳晩やのらくろ展示室に入る
義士の日や上京直ぐの泉岳寺

『まえだとし女 全句』

